

# 英訳しづらい日本語シリーズ 1

JAPANESE CULTURE

March 30, 2012

## 1 はじめに

わたしたちは日本語に囲まれて生きています。普段何気なく使っている言葉も、日本語に特有の概念を大いに含んでいるのですが、普段気にする事はあまりありませんね。しかし、それを英訳しようとする、非常にその「日本語的」な部分を思い知らされることとなります。

たとえば、食感を表す繊細な表現（日本語のいわゆる「オノマトペ」の数は世界でもずばぬけているといえます）であったり、普段から食べている野菜（英語圏では珍しい野菜も多いのです）であったりするわけです。

経済やビジネスの英語を頑張って習得しても、「白菜」や「ほうれん草」、「枇杷」などの身近なものも英訳できない。

それではいけないと思いませんか。

それでは、英訳しづらい日本語シリーズの開講です。

## 2 問題

英訳しなさい。

- 「このうどんにはコシがある」
- 「あつあつ、ほくほく、あまくておいしい石焼き芋はいかがですか」

### 3 答え

- 「このうどんにはコシがある」

「うどん」は”wheat noodles”という場合もありますが、”udon”で構いません。ただし、日本の文化に詳しくない人には、”udon”では分からないでしょうから、”udon noodles”と”noodles”をつけると丁寧です。

問題は、「コシがある」の部分でしょう。食感に関する表現で、是非覚えておいて欲しいのは”a...texture”という表現。これで食感に関する表現をほとんど言い表せます。”...”には形容詞が入ります。今回は、「コシがある」、すなわち、「ちゃんとした噛み応えがある」わけですから、”a chewy texture”となります。

よって答えは、”This udon has a chewy texture.”

- 「あつあつ、ほくほく、あまくておいしい石焼き芋はいかがですか」

石焼き芋の移動販売車がうちの周りを回るようになると、秋を感じさせますね。

「あつあつ」は”hot”，「あまい」は”sweet”，「おいしい」は”tasty”。これらに関しては問題ないでしょう。石焼き芋は、サツマイモですから、”Baked Potatoes”ではなく”Baked Sweet Potatoes”となります。間違えないように注意。

最後に、「ほくほく」ですが、これにはいろいろな表現があつて迷うところ。プログレッシブ和英辞典には、次のような例文があります。

「このいもはほくほくしてうまい What a good potato! It has a light, dry texture.」  
また、オーレックス和英辞典には、次のような例文があります。

「秋になると、焼き芋がおいしいね、ほくほくして。 Autumn brings with it the tasty smell of baked sweet potatoes. they're so soft, flaky and yummy.」

”light””dry”などはそれ自身では美味しそうなかんじは出ませんね。また、”flaky”というのは、パイ生地を連想させる言葉なので、内部に空気の層があることを感じさせる語ですから、そのまま焼き芋に使うとおかしい。そこで”soft”とくみあわせて例文のように使う事になるのですが、”hot”, ”sweet”, ”tasty”と歯切れ良く来ているのでなるべくなら一語にしたい。

そこで、「ほくほく」は”soft”一語でいいんじゃない？とおもってみる。

そうすると答えは、”(How about) Baked Sweet Potatoes? (They are so)Hot,Soft,Sweet,and (Really) Tasty!”